

◇ 目 次 ◇

<p>P2 平成20年度 PV 総会</p> <p>P3 総会後の活動</p> <p>P4 桑原自然保護官あいさつ</p> <p>P5 平成19年度活動記録</p>	<p>P6 岩船岳登頂</p> <p>P7 ミヤジマトンボ環境保全</p> <p>P8 冬の観察会・さくらへの思い</p> <p>P9 聖崎探訪記 編集後記</p>
--	--



ナツハゼ（夏櫨・ツツジ科）

夏のころ、ハゼノキのような紅葉をみることからナツハゼという名がついたそうだ。

山歩きをしていると、この和製ブルーベリーとも言われる熟した実を口に含むと、疲れた体が癒される思いがする。

ここ宮島では、対岸の里山などに比べ、植生としては少ないと広島宮島自然植物実験所のホームページに記されている。

自然散策の折りなど、そのような希少なナツハゼに出会うと、若しかして、その節には

環境省広島事務所人事

3/31 付	田中 静佳	自然保護官	退職
4/1 付	桑原 靖則	自然保護官	着任

（P4に自己紹介文）

何かいい事があるのかもしれませんがね。そんな、ナツハゼに是非とも出会ってみたいものです。

（写真・文） 北野 孝幸

PVの会平成20年度総会

日時 4月5日(土) 10:30~12:00

場所 杉之浦公民館(会議室)

(出席者) 足立 池下 池田 井上 岩崎
大成 小方ペア 小川 奥田 川崎
北野 五石 小林ペア 佐伯 佐渡
佐藤 坂本 渋谷 島 末原 田中
富田 中道 中本 西 野呂田 平田
平山 佛崎 文理 前田 舛田 松田
丸平 宮崎 村上 森 森川 柳瀬
矢吹 横路 六重部

(環境省) 河原課長、西、桑原自然保護官、

PVの会では4月5日(土)杉之浦公民館に於いて平成20年度定期総会を開催した。出席会員44名 委任状提出者2名(会員総数48名)、出席率は過去最高となった。

◎開会挨拶

定刻10時30分に開会、自己紹介に引き続き、村上会長から「昨年実施のアンケートにより、多種の建設的意見を頂きましたが、多くの年間行事メニューの中で自分の得意とする技を磨き、新たな分野を広げていって貰いたい。またボランティアとして時間・体力・経済力を持ち技を無償で提供するとの姿勢で国立公園の自然環境の保全に努め、楽しく会

の活動がなされるように」との開会挨拶。

岡山より出席の河原課長より国立公園の状況、また西保護官より最近の環境行政---シカ対策・ミヤジマトンボ保護・山口地区国立公園管理計画などについて話を聞く。

次に出席者数、委任状提出者数の確認を行い、進行役足立副会長から総会成立の旨が宣言され議事に入った。

◎総会議事(議長 村上会長)

幹事会原案の通り、次の4議案につき個々に報告、審議がなされ、前向きな意見は出さ



杉之浦公民館での総会



総会出席者の記念撮影

れたものの、いずれも特に異議無く承認（総会決議）、11 時 50 分終了。

ア、平成 19 年度活動状況について

イ、〃 決算（案）〃

野呂田監査員から適正との監査報告

ウ、平成 20 年度活動計画（案）について
各部会長から説明

エ、〃 予算（案）について

意見等 セブンイレブン助成金返金、
基金積立、腕章の配布についてなど。

◎その他

足立-----設立 10 周年記念行事アイデア募
集の件(締め切り 9/末、幹事へ提出)

末原-----宮島支所の移転の件（6/末）

小川-----新規購入図書の紹介。

井上-----桜実態調査の概略の報告。

総会後の活動

杉之浦公民館前にて恒例の記念撮影を行い
午後からは二班に別れ、「小なきり浜」清掃と
「入浜汽水池」調査を実施。

小なきり浜は 30 名が参加（参加者名は P10
に記載）毎年の清掃にも拘わらず新たに打ち
上げられた漂着物によって、ハンゲショウや
ハマゴウなど貴重な植物が埋もれてしまっ
ている状況は例年通り。

一方入浜汽水池には 11 名が参加（P10 に
参加者名）先日来の雨でか水位がかなりあが
っており、開削した水路は完全に海との接合
部分が砂で埋まっていて、まったく海水の流
入の気配は無し。新たに配備の測定機にて塩
分濃度・pH などを測定し、6 月からの今年
度の復活整備保全作業の予備作業を行った。



水の流れてない入浜の水路



漂着ゴミで汚れた小なきり浜



見違えるほど綺麗になった浜



砂で埋まった海水流入口

今年も自然環境の保全に努めるべく、総会
で決まった活動計画に新たな気持ちで取り
組んでいきたいものです。

（ 岩崎 義一 ）

「みせん」次号発行予定

発行日 9 月 1 日 第 33 号

原稿締切 7 月末日

皆さんの投稿をお待ちしています。

着任あいさつ

桑原自然保護官

この度、4月の人事異動により、環境省広島事務所へ妻・長女を熊本県の阿蘇に残し、単身着任しました桑原 靖則(くわばらやすのり)です。出身は、長野県の本曾町で島崎藤村の夜明け前「木曾路は、すべて山の中である」と言う書き出しと木曾節で有名な木曾御嶽山の麓です。

広島とは、縁はないと、思っていましたがよく考えると縁がありそうなが分かってきました。

広島と言えば戦争と平和を考える場、世界平和を願って、多くの人を訪れますが私は、昭和 39 年の東京オリンピックの最中に生まれました。

昨今、世界的な問題を起こしている聖火リレーですが、東京オリンピックの最終聖火ランナーを務め、広島に原爆投下された日に生まれた広島県三次市出身で元フジテレビ社員の坂井義則さんの則の一文字をとってつけられた名前と聞いています。

20 代の頃スポーツは、フルマラソンもやっていたのですが昨今は時間があれば毎週、登山かドライブ、写真撮影と温泉めぐりです。

専門は、林学ですが電気が好きなので情報処理のプログラムを作りながらゲーム作成を主にやっていました。現在は、電気の資格を2つとアマチュア無線を少々やっていますので広島にはかなり知り合いもいます。

親戚も広島にあり、原爆で犠牲となった叔母さんもあり、親戚の叔父より戦争の話は、いろいろ聞かされてきました。長崎で建造され呉で竣工した戦艦武蔵にも乗船していた親戚やNHKのプロジェクトXで紹介されたマツダ社のロータリエンジンの設計技術者もいます、DVD等をお持ちでしたら再聴取してみてください。

国立公園は、今まで南は西表石垣国立公園、

上信越高原、中部山岳、富士箱根伊豆、南アルプス、小笠原、秩父多摩甲斐、瀬戸内海国立公園大阪周辺、吉野熊野、伊勢志摩、阿蘇くじゅう、雲仙天草国立公園を担当とする勤務をしてきました。

最近では、世界遺産となった「紀伊山地の霊場と参詣道」の指定にも携わりました。

日本の自然は、場所々で勉強することが多く、植物や生物の名前は広く浅くあまり詳しくはありません。

現在の広島事務所は、瀬戸内海国立公園の担当区域は、広島と山口東西約 300km にも及びますが島々も沢山あり、これからの楽しみです。既に宮島を含めて1ヶ月で10島を回りました。

環境本省勤務時代にパークボランティア制度を発足し、霧島、尾瀬、上高地などで当時全国のレンジャーも日々ディスクワークが多忙で、ふれあい部門まで対応できなかったため、自然解説部門、美化清掃、施設の簡易な補修等で活躍されている個人や団体が多々おり、そういう人達を旨く活用できないかの発想から生まれた制度です。現在 39 地区で約 1800 名の会員の方が全国で活動しています。

宮島地区パークボランティアの皆さんの活動には、今後はなるべく参加して、色々と地区の歴史、名勝や自然について教えていただき一緒に活動してまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

平成20年度 環境の日 ひろしま大会

と き : 6 月 8 日 (日) 10:00~17:00

と ころ : 広島県庁前広場

広島県、広島市など主催、環境省他の後援で6月の「環境月間」行事として「環境の日」ひろしま大会が開催されます。環境省中国四国地方環境事務所広島事務所ブースに宮島地区パークボランティアの活動状況をたくさんの写真を使って、パネル展示していますから、都合のつく人は是非、会場へお出かけになってください。

(広報部会)

平成 19 年度 P V 活動記録

平成 19 年 4 月～20 年 3 月

	開催日	行 事	参加人数	備 考
総会 等	4/7 (土)	平成 19 年度定期総会	47	小なきり浜清掃
	12/1 (土)	年末の集い・部会・研修会	27	地図に関する研修
観察 部会	4/30 (祝振)	公募観察会の下見 (弥山の植物)	16	本番は雨天中止
	11/25 (日)	公募観察会 (海辺の小径・室浜)	19	下見 11/17 16 名参加
	H20 2/24 (日)	〃 鷹ノ巣 (歴史・植物)	18	下見 2/16 14 名参加
	7/7(土)10/28(日)	入浜観察会 (生き物調査)	延 27	H20,3/23 雨天中止
	10/23 (火)	ベニマンサク観察会	10	おおの自然観察の森
	9/20 (木)	弥山・ハチクマの渡り観察	6	
	H20 1/19 (土)	初めての経小屋山観察会	16	
環境 整備 部会	5/19 (土)	鷹ノ巣砲台跡清掃、整備	27	
	7/14 (土)	包ヶ浦海岸清掃・台風接近で中止		
	8/5 (日)	自然公園クリーンデー	24	
	9/14,15 (金、土)	入浜汽水化復活整備	延 29	新規
	9/29 (土)	名板取り付け作業・保守点検	20	
	10/20 (土)	紅葉谷公園内の歩道補修清掃	21	
	12/8 (土)	弥山登山道の補修・清掃	21	
	H19 3/8 (土)	岩船岳登頂・植物観察会	20	
その 他	7/15,16 他 2 回	J P R 活動支援	延 16	8/27,28 9/15
	11/10,H20,2/24	宮島の自然海岸調査	延 10	大砂利海岸
	3/15,16(土,日)	ミヤジマトンボ生息地整備、清掃	延 18	

「新規購入図書」

(宮島詰所に保管)

3 月末に次の 2 冊を購入しました。

「瀬戸内海事典」(南々社.2007.2 発行)

瀬戸内海の魅力について、5 つのテーマに分け、総合的に集大成した事典です。

「トンボのすべて」

(トンボ出版 2005.8 発行)

トンボの好む環境、トンボの生活史、生態、採集・飼育の方法、など、トンボに関するあらゆる情報ときれいな写真が満載。入浜調査の楽しさが倍増します！

この他 2008 年度予算で

「芸備地方紙研究 258・259 号厳島研究の過去・現在・未来」(芸備地方紙研究会編 2008/2 発行) も購入していますので利用してください。
(小川 加代)

10 周年記念行事アイデア募集

P V の会は来年 (2009 年) 8 月に設立 10 周年となります。この機会に会員の皆さんから記念行事のアイデアを募ることにします。例えば

- ・記念の植樹をする
- ・記念講演会を開催する など 10 周年記念行事に相応しいアイデアをお寄せ下さい。採用案には記念品を贈呈します。

提案締切 平成 20 年 9 月末

提出先 P V の会 幹事

鷹ノ巣高砲台跡の整備・清掃

5 月 10 日 (土) に予定していた鷹ノ巣高砲台跡の整備・清掃が、雨天中止となりましたので、6 月 7 日 (土) に実施します。

あての木浦から 岩船岳登頂

日 時 3月8日(土) 8:00~18:00

(参加者) 足立 岩崎 大成 小川 川崎
小林ペア 佐渡 佐藤 島 末原 田中
中道 中本 佛崎 前田 舛田 村上
山形 横路

今年の岩船岳登山は、広島市植物公園の山本専門員をゲストに迎え、植物観察会を兼ねて開催されました。宮島口桟橋に集合し、参加者で小船に乗り合わせて冷たい風を切りながら30分弱、あての木浦に乗りつけました。

軽い準備運動の後、早速、あての浦の裏山に続く道なき道を列をなして入っていきます。シダが生え足元も見えない状態でしばらく進むと、やがてロープが張られた歩きやすい足場の道へとなっていました。ズンズンと足を止めることなく、山に茂る植物について随時メモを取りながら進む余裕をもつ皆さん。一方、徐々に足が重たくなりペースを落とすわたし。たまに立ち止まって一息つきながら、目に映る植物の名前や、目指す岩船岳のいわれについて前後の皆さんに教えてもらい、前へと進みます。

御床山頂に着く手前で昼食をとり、エネルギーを補給した後、再び岩船岳を目指し出発。急な斜面や岩を乗り越えながら、予定より30分遅れで岩船岳頂上に到着しました。

巨石の上から周囲の島々が見渡すことの出来るポイントに辿り着くと、それまでの疲労が吹っ飛ばすような絶景。途中見えて

いた頂上に、ついに立っているのだと思うと、達成感を感じずにはられません。

休憩の後、少し進んで行くと、目の前には「船」の形をした「岩」そのいわれに納得です。更に進むと、噂のコウヤマキの群生が見られました。宮島には珍しいコウヤマキ。この名前を聞いてパッと思いつくのは、悠仁親王の命名の儀でお印とされた樹木であるということ。コウヤマキの樹木は葉がピンと伸びており、まっすぐに上を向いています。きっと新たな生命に、天に向かって筋の通った男児になるように、との思いが込められているのかな?などと思い、後にしました。

下山の途中「陶晴賢記念碑」のある高安ヶ原へ降りました。記念碑が立つその場所は、厳島の戦いで毛利軍に敗北した晴賢が切腹自害した地だそう。寂しい山中の静まった空気は、敗北の無念さを演出しているようでした。そうして参加者全員、けがもなく、岩船岳登山を終えました。

一日中歩いてみて、改めて宮島の広さと奥深さを感じました。登らなくては分らなかった宮島の顔に出会ったような気がします。

今回が宮島パークボランティアの最も過酷な登山であった、というのは後から聞いた話で、初参加で、そんな“体力試し”とも言えるコースを踏破し、とても刺激を受けました。参加された皆さん、お疲れ様でした。

(山形 妙子)



岩船由来の岩の前で



岩船岳登頂参加者

“ミヤジマトンボ”

生息環境保全

日 時 3月15、16(土、日)
 参加者(3/15) 池下 奥田 川崎 小林
 (勅) 佐藤 末原 中道 野呂田 平田
 平山 舩田 松田 村上 横路
 田中、西 自然保護官
 (3/16) 佐藤 中本 平田 森 柳瀬
 西 自然保護官 藤本 AR

今回の作業は、「環境省グリーンワーカー事業」の一環として、ミヤジマトンボ協議会および県環境協が実施する環境整備に協力するということでした。

両日とも快晴で9時30分大野の塩屋漁港を船で出発し、宮島西部海岸に上陸しました。作業開始前に、広島市昆虫館の坂本さんから、ミヤジマトンボの生態についての説明がありました。ミヤジマトンボの生息地は世界3か所(中国、香港、宮島)であり、絶滅危惧種Ⅰ類(国、県)とのこと、宮島地区での生息数は調査中とのこと、天敵である他のヤゴと比較してミヤジマトンボは耐塩性(塩分濃度は海水3%, 当池では0.35%)があること、ヒトモトススキが住むのに適していること、水中より干潟状を好むことなど整備協議会を通じて段々とわかってきているとのこと。

作業内容は、整備方針に基づき海水の流入を図るため、水路の築造(去年の水路はみるかげもなく土のうだけが残っていました。)と池

周辺のビニール類の除去を含む清掃作業でした。水路は土のうを470袋ほど積み本格的なものができ、16日にはさらに130袋の土のうを用いて池の中へも水路を築造し、池の水が干上がる程度までできました。

当会は参加しませんでしたでしたが、もう1箇所ではヒトモトススキの草刈りが行われた模様でした。

大変な重労働でしたが、全員が怪我もなく終了することができ、有難うございました。

(平田 広三郎)

宮島のシカについて

思うこと 小川 加代

夏、宮島の栈橋付近で、座っているシカがわずかに体を動かすと、その体表をさざ波のように移動する大小無数のダニを見たことはありませんか？私はそれを見て常々犬猫と同じように背中に一滴たらすだけでダニを簡単に退治できる薬があってもよさそうだと思うていたら、4月のある新聞でそんな薬のあることを知りました。

でもその記事は、生態系の破壊を警告するものでした。牛など放牧家畜の背中に塗られた薬は糞とともに排泄され、糞を食べるフンコロガシを死なせてしまうというのです。

やはり、シカのためにと安易に薬を使うことはできそうにありません。

こんな風に、私たちの何気ない行為が、気付かないうちに自然に取り返しのつかない影響を与えているかもしれないという視点で宮島について考えると、PV活動や宮島を訪れる多くの人たちにも自覚が必要なきが来ているように思えます。



3月15日(土)の参加者

「冬の宮島」 公募観察会

包ヶ浦～鷹ノ巣山

日 時 2月24日(日) 9:00～15:00

参加者 足立 岩崎 奥田 川崎 小林ペア
佐渡 佐藤 島 中道 野呂田 平山
舛田 丸平 村上 森 横路 六重部
(環境省) 藤本 AR

当日の予報では午前の降雪確率が30%、大雪、強風警報なども発令されていた。そのせいか、一般参加者は申込より9名減り24名になった。包ヶ浦に集合し予定通り9時30分に開会、六重部さんをリーダーに出発した。登山道の両脇には雪がわずかに残っていたが、歩くには支障なく、その都度、植物の説明を聞きながら11時過ぎ、通称「わらび平」に到着した。

そこでは野呂田さんの労作「シロダモの虫コブ」に関する説明を聞いた。「自然界に不必要なものはない」との話に首肯。続いて中道さんよりヘッドセットマイクを使つての、高砲台跡の軽妙洒脱なお話。明治時代の築造技術の高さに感心した。その後、方位観測所跡付近で昼食。

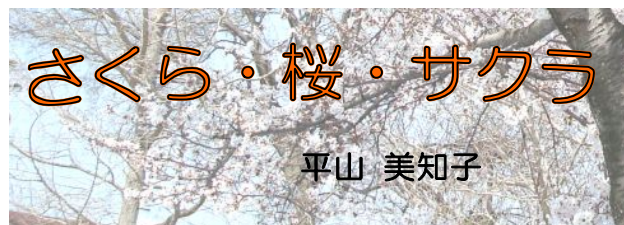
13時より通信所跡を見学後、林道(旧軍用道路)を通り下山。途中、サカキカズラの種子を飛ばして遊んだりしながら、14時20分包ヶ浦管理センターに無事帰着。

一日中、陽が差したり小雪が舞ったりの不安定な天候だった。花はわずかに咲いたアセ

ビとヤブツバキ程度。華やかさに欠ける観察会となったが、これが冬の宮島の姿だと認識した。(川崎 昭壽)

※2月16日の下見会のみ参加者

井上 末原 田中 柳瀬



6年前の春、尾道の歴史と風景に魅せられて、一人で散策していた時のことです。

日が暮れてきたので駅の方へと帰りかけたとき、犬の散歩をしていた人から「今、西国寺の桜が満開ですよ」と声をかけられました。

急ぎ引き返しましたが、着いた時には、すっかり日が沈み参道の両側で満開のはずの桜が色を失い薄墨色に変わっていたのです。それでも仁王門の大草履めざして歩いて行くと、前後左右何か迫ってくるような妖気を感じたのです。

あれ以来どこに行っても桜が気になります、中でも大地にどっかと根を張った姥桜に出会うと、思わず立ち止まり、そっと触れてしまいます。

以前、宮島の桜調査で、少しお手伝いしましたが、枝は折れ、勢いがなく、テングス病等で元気のない桜が目につきました。

明治32年4月5日の「芸備日々新聞」には<大元谷のさくら 宮島大元公園地の時雨の桜は、追々開蕾したりとの報ありき、大元は名にし負ふところにして料亭には白雲洞あり、その仙居めきたる所に杯を挙げて花を賞しなば、齢ひも延びん心地ぞすらん、邁けや雅人ゆけや俗士>(原文のまま)とあります。

今は時雨桜を見ることは出来ませんが、宮島は桜の似合う所です、未来永劫たくさんの方が楽しんでいけたらと思います。

PV10周年記念行事として思いついたのが桜の植樹です。

皆さんと知恵を出し合い百年後の人々に喜んでもらえるような桜をめざしましょう。



シロダモの虫コブの説明

聖崎探訪記

新しい観察会スポット探索のために 2/24 鷹ノ巣観察会のあと岩崎、佐藤、野呂田、舩田、横路の5名が事前探訪、潮の引き具合から4月8日午後、中道、野呂田、舩田の3名でじっくり聖崎を探訪して来ました。

杉の浦のカキ打ち場近くから北へ入り、足元に咲くスミレを見ながら姥ヶ懐の海岸線を通り、「米ヶ浦」に着きました。ここから海岸伝いに聖崎の先にある蓬莱岩に進もうとしましたが、まだ海水が多いため断念し一旦上になり通りがかりの人のアドバイスで 姥ヶ懐方面から下ると簡単に蓬莱岩にたどり着きました。ここは波により花崗岩が削り取られ



徐福伝説の残る蓬莱岩

て二つの大きな岩が残った所で、すぐ前の海岸線には大小の海食洞や海食門が見られ、海水の浸食によって出来た海食崖で海岸が後退していった様子が窺われる。

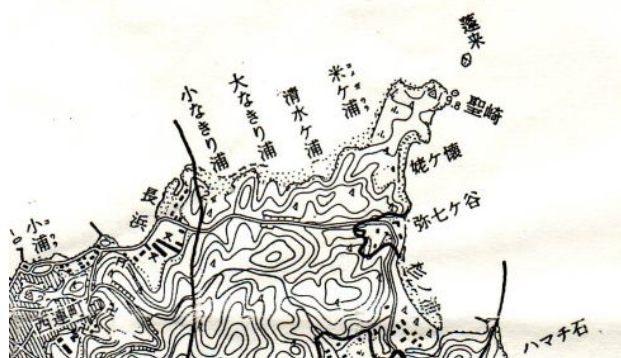
蓬莱岩はやせ地で松しか生えていないようです。磯には色とりどりの海藻が広がっていて干潮線あたりから沖に向かって魚のゆりかごとと言われるアマモが生えていて小魚や貝の仲間であるアメフラシがたくさん見られました。

蓬莱岩の沖には天保15年寄進された石灯籠があり、海中の地形が複雑であることが窺われます。色んな角度から二つの大岩を見ると様々な表情に変わり秦の始皇帝の命で不老長寿の仙薬を求めて旅立ったと伝えられる徐福伝説。春先に蜃気楼が見られるとも言われ神秘的で霊域なものさえ感じられます。

帰りはオオヘビガイ、地元の人がタテガイと言っているハボウキガイ、シマメノウフネガイなどを見つけながら海岸線を通って帰り、棧橋に着いたのは6時でした。

山々も海も海岸もあまりにも美しく、色々の発見があり、あっという間の4時間でした。

(野呂田 恵子)



◇ 編集後記 ◇

▼5/24 日の厳島神社周りの公募観察会は雨天中止となったが、一般参加申込が少なく担当幹事は気をもんでいた。最近は多種多様な観察会が各所で催され、並みの観察会では人が集まらなくなってきたが、今回のようにユニークなテーマでもとなると、観察会の運営方式そのものを見直す必要があるのかもしれない。その意味で今回有志が探訪してきた聖崎は新しい観察会スポットとして大いに期待できる。

(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 2 号館 6 階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町 1162-18

(宮島棧橋 2 F)